

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察予報第4号を發表します。

平成27年度病害虫発生予察予報 第4号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並	平年並
	紋枯病	平年並	平年並
	縞葉枯病	平年並	やや少
	ヒメトビウンカ	平年並	平年並
	セジロウンカ	やや少	やや少
	トビイロウンカ	やや少	少
	ツマグロヨコバイ	平年並	やや少
	イネツトムシ	やや少	やや少
	コブノメイガ	平年並	やや少
	斑点米カメムシ類	平年並	やや少
ダイズ	葉焼病	やや少	少
	べと病	やや少	少
	立枯性病害	平年並	やや少
	フタスジヒメハムシ	やや少	やや少
	ヒメサヤムシ類	平年並	平年並
	ハダニ類	やや少	少
	カメムシ類	平年並	やや少
	ハスモンヨトウ	平年並	やや少
野菜等共通	ハスモンヨトウ	平年並	やや少
	ハイマダラノメイガ	平年並	やや少
果樹共通	果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ クサギカメムシ ツヤアオカメムシなど)	平年並	やや少

* 今後の気象予想

近畿地方 1か月予報

(8月8日から9月7日までの天候見通し)

平成27年8月6日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気 温】 近畿地方 

【降 水 量】 近畿地方 

【日照時間】 近畿地方 

凡例:  低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目 近畿地方 

2週目 近畿地方 

3～4週目 近畿地方 

凡例:  低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 8月 8日(土)～ 9月 7日(月)
1週目 : 8月 8日(土)～ 8月14日(金)
2週目 : 8月15日(土)～ 8月21日(金)
3～4週目 : 8月22日(土)～ 9月 4日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病（穂いもち）】

(1) 予報の内容 発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の県予察ほ調査によると、葉いもちの発病株率48.0%(平年53.0%)、発病度12.0(平年17.9)と平年並の発生であった。

イ 7月中下旬の病害虫防除員の調査結果では、308ほ場調査のうち、葉いもちの発生ほ場31ほ場で確認された。

ウ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並と予想されており、平年並で推移すると思われる。

防除上の留意点

ア 今後、普通期栽培イネでは出穂を迎えるため、葉いもちの病斑が上位葉にみられたほ場では特に穂いもちの発生に留意し、状況に応じて薬剤散布を実施する。

イ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。

兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

2 【紋枯病】

(1) 予報の内容 発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の県予察ほ調査によると、発病株率4.0%(平年5.3%)、発病度1.0(平年1.6)とほぼ平年並の発生であった。

イ 7月中下旬の病害虫防除員の調査結果では、308ほ場調査のうち発生ほ場17ほ場で確認された。

ウ 兵庫県農林水産技術総合センター(加西市)の気象感応調査(8月5日)によると、茎数は早期、普通期ともに平年値を下回っている。

エ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みまたは高く、降水量は平年並みと予想されており、平年並みの発生で推移すると思われる。

防除上の留意点

ア 本病の発生は、ほ場間差が大きく、局所的な降雨によっては、一部のほ場で多発する恐れがあるので発生に留意し、状況に応じて薬剤散布を実施する。

イ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。

兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

3 【縞葉枯病】

(1) 予報の内容 発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 5月下旬に採集した県内のヒメトビウンカの同病ウイルス保毒虫率は、平均3.1%と高く注視する必要がある。

イ 7月中下旬の病害虫防除員の調査結果では、東播磨、西播磨、中播磨、阪神北地域で発病を確認している。

ウ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並みと予想されており、本病媒介虫であるヒメトビウンカの増殖に好適な条件が続くと考えられる。

4 【ヒメトビウンカ】

(1) 予報の内容 発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の県予察ほ調査によると、払い落とし10株当りの幼虫数は14頭と平年並の発生であった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みまたは高く、降水量は平年並みと予想されており、本虫は順調に増殖すると考えられる。

5 【セジロウンカ】

(1) 予報の内容 発生量： やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の県予察ほ調査によると、捕虫網によるすくい取り10回振り当りの虫数は9頭とやや少ない発生であった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みまたは高く、降水量は平年並みと予想されており、本種の生態的な特徴として、水稻栽培後期における顕著な増殖はないと考えられる。

6 【トビイロウンカ】

(1) 予報の内容 発生量： やや少

(2) 予報の根拠

ア 県予察ほ場調査ならびに県下3箇所（加西市、朝来市、南あわじ市）に設置している予察灯いずれも確認していない

イ ウンカ飛来予測システム（JPP-NET）によると、7月上～中旬に飛来波が認められるものの、病害虫防除員、農業改良普及センターいずれの調査報告からも本田での発生は確認されていない。

イ 1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年並みまたは高く、降水量は平年並みと予想されており、本種の増殖にとって好適な条件であることから、今後発生が見られる可能性がある。

ウ 収穫期が10月以降になる作型（ヒノヒカリ・山田錦等）や無防除ほ場においては、8月下旬～9月上旬に本田をよく観察し、本虫の密度が要防除水準（成・幼虫5頭/株）を超える場合は速やかに防除を実施すること。

エ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。
兵庫農薬情報システム（<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>）

7 【ツマグロヨコバイ】

(1) 予報の内容 発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の県予察ほ場調査によると、捕虫網によるすくい取り10回振り当りで3頭とやや少ない発生であった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みまたは高く、降水量は平年並みと予想されており、水稻栽培後期にかけて密度は増加し、平年並の発生になると考えられる。

8 【イネツトムシ】

(1) 予報の内容 発生量： やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の県予察ほ調査によるとツトの被害は確認していないが、西播磨の一部のほ場ですくい取りによる幼虫の発生が認められている。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みまたは高く、降水量は平年並みと予想されており、現状の発生状態で推移すると考えられる。

9 【コブノメイガ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の発生予察は調査によるとツト数は、25株当たり2株であった。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みまたは高く、降水量は平年並みと予想されているが、本年の飛来量は多くなく、今後顕著な増殖はなく平年並の発生になると考えられる。

10 【斑点米カメムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所の予察灯およびフェロモントラップへの誘殺数はやや少ない状態であったが夏季に入り増加が見られ始めている。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みまたは高く、降水量は平年並みと予想されており、本虫の発生は今後増殖し、平年並になると予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 斑点米カメムシは、畦畔、水田内のイネ科雑草の存在によって密度が高くなるので出穂前の雑草管理を徹底する。

ア 穂揃期の防除も効果的である。

イ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。

兵庫農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

ダイズ

1 【葉焼病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の加西市の県予察は調査では、発生を認めていない。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みから高く、降水量は平年並と予想されており、本病の発生はやや少ないと考えられる。

2 【べと病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の加西市の県予察までは、発生を認めていない。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みから高く、降水量は平年並みと予想されているが、本病の発生はやや少ない発生と考えられる。

3 【立枯性病害(主に茎疫病、黒根腐病、白絹病)】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の加西市の県予察までは、発生を認めていない。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みから高く、降水量は平年並みと予想されている。本病も平年並に発生すると考えられる。

ウ 茎疫病は、開花期の干ばつによる畝間灌水により土壌水分の乾湿差が、発病を促進することがあるので、排水対策等のほ場管理に注意すること。

4 【フタスジヒメハムシ】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の加西市の県予察までは、発生は確認されていない。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みから高く、降水量は平年並みと予想されており、今後ダイズの成育に伴い発生すると考えられる。

5 【ヒメサヤムシ類】（食葉性チョウ目幼虫を含む）

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の加西市の県予察までは、平年並の発生が見られている。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みから高く、降水量は平年並みと予想されており、今後ダイズの成育に伴い発生すると考えられる。

6 【ハダニ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の加西市の県予察ほ調査では県予察までは、発生は確認されていない。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みから高く、降水量は平年並みと予想されており、今後この状態での発生が続くと考えられる。

7 【カメムシ類】（マルカメムシを含む）

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の加西市の県予察ほ調査では、マルカメムシの発生が認められている。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みから高く、降水量は平年並みと予想されており、今後ダイズの成育に伴い、カメムシ類の発生量は増加すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 今後、ダイズの成育が進み、開花・着夾期を迎えると、カメムシ類が莢の吸汁に飛来する発生状況を注視し、適期に防除を実施する。

イ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。
兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

8 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 加西市（県立農林水産技術総合センター）におけるフェロモントラップ発生状況調査によると、7月5半旬に31.5頭（前年6.8頭）、同6半旬6.3頭（前年8.6頭）となっている。また過去10年の平均虫数は、7月5半旬に75頭、同6半旬76頭に比べとしては、やや少ない発生であり、ダイズの白変葉も見られていない。

イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みから高く、降水量は平年並みと予想されており、本種の増殖に好適な条件になると考えられる。また、生態的には、今後密度が増加期を迎えることから、平年並の発生になることが予想される。

(3) 防除上の留意点

ア 本虫の食害による白変葉が発生していないか注意して観察する。

イ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。
兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

野菜共通

1 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

- ア 加西市（県立農林水産技術総合センター）におけるフェロモントラップ発生状況調査によると、7月5半旬に31.5頭（前年6.8頭）、同6半旬6.3頭（前年8.6頭）となっている。また過去10年の平均虫数は、7月5半旬に75頭、同6半旬76頭に比べとしては、やや少ない発生であり、ダイズの白変葉も見られていない。
- イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みから高く、降水量は平年並みと予想されており、本種の増殖に好適な条件になると考えられる。また、生態的には、今後密度が増加期を迎えることから、平年並の発生になることが予想される。

防除上の留意点

- ア 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。
兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

2 【ハイマダラノメイガ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

- ア 加西市（県立農林水産技術総合センター）におけるクレオメを用いた8月上旬の発生状況調査によると、寄生シュート（花枝）率が8%で平年並の発生であった。
- イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みから高く、降水量は平年並みと予想されており、今後高温乾燥状態は、本種の増殖に好適な条件であるほか例年9月に発生最盛を迎えるため発生に注意すること。

(1) 防除上の留意点

- ア キャベツなどアブラナ科野菜の育苗期および定植直後の加害はダメージが大きいので、不織布や寒冷紗などにより本虫の飛来を避ける。
- イ 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システム等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。
兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

果樹共通

1 【カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

- ア 朝来市（北部農業技術センター）における7月1か月間のフェロモントラップ誘殺調査では、チャバネアオカメムシが104頭、クサギカメムシが4頭、ツヤアオカメムシが0頭、また、加西市（県立農林水産技術総合センター）における7月1か月間の予察灯による調査では、チャバネアオカメムシが3頭、クサギカメムシが0頭、ツヤアオカメムシは0頭と平年に比べてやや少ない発生であった。
- イ 1か月予報によると向こう1か月の気温は平年並みから高く、降水量は平年並みと予想されており、今後夏期の密度増加により発生は平年並になると考えられる。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nour.insuisangc.jp/>)